

第12回都市交通政策・観光・交通行動研究に関する国際セミナー

The 12th International Seminar on Urban Transport, Tourism and Travel Behavior Analysis

毛利雄一¹

Yuichi MOHRI

1 はじめに

本国際セミナーは、第1回（2008）北京交通大学での開催以降、都市交通政策、観光・交通行動研究に関する日本、中国および韓国の研究者間の相互交流を深める目的で、今回の石家荘市でのセミナーを含め、12回開催されている。セミナー開催の背景は、従前の観光地交通計画に限定されていた議論の枠組みから脱して、日本の観光立国を目指した国際観光論の展開、広域周遊行動における観光地（域）間交流、都心部地区回遊行動に着目した研究、さらには、観光まちづくりのためのAMMA（Area Marketing & Management Approach）手法開発への関心の高まり等々、観光研究の広領域への拡大の必要性が強くなったこと等があった。これらの背景のもとに、国際観光と観光統計、観光マーケティングへの取り組みとともに、休日・観光交通行動分析、都市・地域交通政策、そして観光研究に関する最新動向とその展望について、活発な研究討議を行ってきた。

また、開催都市を中心とする都市や観光地の現地視察を通じて、歴史文化をはじめとするその特徴や魅力を体感するとともに、日本と中国、韓国の共通点や異なる点、今後の都市交通・観光政策について議論を行ってきた。

2 第12回石家荘市セミナー

今回の第12回都市交通政策・観光・交通行動研究に関する国際セミナー（2024）は、石家荘鉄道大学において、王興孝（Wang, Xingju）教授の協力を得て開催された。石家荘市は、北京から南280kmに位置し、高速鉄道で1時間30分、普通列車、自動車約3時間であり、河北省の省都で人口約1,078万人、省内の経済・金融・文化の中心となっている。また、石家荘鉄道大学は、1950年に前身の鉄道兵団幹部学校が北京市で創設され、翌1951年に石家荘市へ移転し、2010年に石家荘鉄道大学へ改称され、鉄道事業を中心とした土木工学、機械工学、経済管理学、交通運輸学、電気・電子工学等の人材育成を目指した大学である。

今回のセミナーは、2024年9月12日～14日の3日間で行われ、1日目はRegistration、2日目は石家荘鉄道大学にて終日セミナー、3日目はTechnical Excursionとして、石家荘市の観光スポットを視察した。

（1）石家荘市セミナー

9月13日（金）の2日目の石家荘鉄道大学でのセミナーは、日本3名、韓国4名に、石家荘鉄道大学の学生を含む中国人30数名の出席者によって開催された。

表－1 これまでの国際セミナーの開催

		開催地
第1回	2008年	北京市（北京交通大学）
第2回	2009年	北京市（北京工業大学）
第3回	2011年	蘇州市（蘇州大学）
第4回	2013年	西安市（長安大学）
第5回	2014年	神戸市（流通科学大学）
第6回	2015年	大連市（大連理工大学）
第7回	2016年	済南市（山東交通学院）
第8回	2017年	西寧市（青海民族大学）
第9回	2018年	杭州市（浙江大学）
第10回	2019年	札幌市（北海商科大学）
第11回	2022年	ソウル市（韓国交通大学）
第12回	2024年	石家荘市（石家荘鉄道大学）



写真－1 石家荘鉄道大学でのセミナー開催

¹ 業務執行理事、研究本部長兼企画室長 博士（工学）

セミナーでは、2名のKeynotes「王 興挙 (Wang Xingju) 教授 (石家荘鉄道大学) : 石家荘鉄道大学における交通学の紹介と発展方向」、「日比野 直彦 (Naohiko Hibino) 教授 (政策研究大学院大学) : 新型コロナウイルス感染症流行期における東京の都市鉄道利用頻度と通勤定期券保有状況の変化」のセッションがあり、その後、3つのセッションにおいて10編の論文発表とその質疑が行われた。

10編の論文は、「①マルチソースデータに基づく観光ホットスポットの特定」、「②COVID-19が個人のレジャー旅行行動に与える影響の評価」、「③旅行体験とコロナ後の海外旅行意向の相関関係：中国の事例研究」、「④温室効果ガス排出が自動車選択に及ぼす道徳的リフレーミング効果」、「⑤オンライン旅行記に基づく新疆ウイグル自治区の自動運転キャンプ場のレイアウトに関する調査」、「⑥需要に応じた交通機関の仮想停車決定のシミュレーション」、「⑦水素燃料電池自動車に対する消費者の嗜好の評価：中国の複数都市におけるコンジョイント分析アプローチ」、「⑧異なる時空間都市における未使用のフリーフローティング型およびドック型シェア自転車のアイドル期間の分析」、「⑨オーバーツーリズムへの意識を踏まえた中国人観光客の日本訪問意向に対するCOVID-19の影響」、「⑩COVID-19後の中国からのインバウンド観光における行動意図の不可逆性」であり、日本から2編、韓国から1編、中国から7編が発表された。

発表された論文の特徴は、中国、日本におけるCOVID-19による観光需要および観光をはじめとする交通行動への影響、カーボンニュートラルに向けた政策と意識、自動運転をはじめとする新たなモビリティの導入に向けた取り組みとその実態等であり、多岐にわたるテーマの発表とそれに対する活発な質疑に加え、中国、日本、韓国の政策と意識の違いについても議論が行われた。

(2) 石家荘市観光スポット視察

9月14日(土)の3日目はTechnical Excursionとして、石家荘市における隆興寺、柏林禅寺等の寺院、安済橋、趙雲廟、夜の正定古城など、数多くの観光スポットを視察した。ここでは、印象に残った石家荘市の有名観光スポット2か所を紹介する。

1つ目は安済橋(写真-2)であり、趙州橋や趙州大石橋とも呼ばれ、7世紀初め(隋の時代)に建設された。全長64.4m、幅9.6mの、1400年の長きにわたり使用され

てきた石造りのアーチ橋である。2つ目は趙雲廟(写真-3)で、石家荘市が三国時代蜀の猛将趙雲の生まれ故郷であることから、子孫である華僑の人間が資金を出して趙雲の廟を建てたものである。また、趙雲だけでなく、蜀の皇帝劉備、諸葛孔明、張飛、関羽の像の展示や当時の歴史等、三国志を知るうえで、大変興味深い視察となった。



写真-2 安済橋(趙州橋)



写真-3 趙雲廟